



マイクロインシュアランス普及における相互性の重要性

脆弱な人々を護るための顧客中心のアプローチ

[脆弱な人々を護るための顧客中心のアプローチ](#)

本ガイドの目的

ICMIF財団は、相互および協同組合保険会員に対しマイクロインシュアランス・プログラムの開発・普及を支援しています。ICMIF会員の関与と支援が成功のために必要です。しかしながら、多くのICMIF会員にとってマイクロインシュアランスは身近な事業種類ではないため、「マイクロインシュアランスとは何か?」「マイクロインシュアランスに加入している人はどれくらいいるのか?また、普及促進に有効な手段は何か?」「マイクロインシュアランスは一般的な保険とどのように違うのか?」「相互のマイクロインシュアランスは、商業的なマイクロインシュアランスとどのように違うのか?」「相互のマイクロインシュアランスは国連の持続可能な開発目標(SDGs)にどのような影響を与えるか?」といった疑問に明確に答えることが重要です。

図1: 本ガイドの目的

本ガイドでは、相互のマイクロインシュアランスが世界中の低所得で脆弱な人々に回復力を構築するという役割を知っていただき、ICMF財団の活動に関する今後の議論の出発点となるよう、皆様の疑問にお答えします。

図2: 本ガイドの構成

「マイクロインシュアランスとは何か？ なぜそれが必要なのか？」

「マイクロインシュアランス」は、低所得者層が利用する保険として定義されています。¹低所得者層は、保険料を支払う余裕がないため、従来の一般的な保険には加入できません。低所得世帯が持っているわずかなお金は、住宅、食料、子供の教育など家族の基本的なニーズを確保するために費やされています。また、保険についての理解が不足しており、否定的な認識をもっていることがよくあります。しかしながら、最もリスクに晒されているのは低所得者層であり、一家の大黒柱の死や台風による家屋崩壊などの大惨事が発生した場合、頼りになるものがなく貧困に陥ることがよくあります。

「マイクロインシュアランスに加入している人はどれくらいいるのか?また、普及促進に有効な手段は何か?」

マイクロインシュアランス・ネットワークの「マイクロインシュアランスの世界地図」によると、世界中でおよそ2億9,000万人がマイクロインシュアランスを少なくとも1 契約保有し、保障が得られていることを示しています。²世界中でマイクロインシュアランスを普及させる上で、役割を果たしている要因のいくつかを以下に紹介します。

図3: 本ガイドの構成

本ガイドは、相互のマイクロインシュアランスが世界中の低所得で脆弱な人々に回復力を構築するという役割を知っていただき、ICMF財団の活動に関する今後の議論の出発点となるよう、皆様の疑問にお答えします。

バンドリング	テクノロジー	非伝統的な販売ルート	外部機関の影響と支援
低所得世帯は可処分所得が限られているため、マイクロインシュアランスを単独で購入するという選択肢をとらない場合がよくあります。このため、マイクロインシュアランスを融資などの他の商品と組み合わせることで、マイクロインシュアランスにアクセスしやすくすることができます。	携帯電話などのテクノロジーの利用は、マイクロインシュアランスの保険料を低く抑えることを可能にただけでなく、保険金請求の管理、更新手続き、保険契約者とのやりとりの改善などをもたらしました。	販売チャネルは低所得者にとって利用しやすい方法であることが不可欠です。マイクロインシュアランスでは、マイクロファイナンス・ネットワークのような非伝統的販売チャネル、教会、自助グループ、NGOのような認可されていない非伝統的エージェントを利用されています。	世界中でマイクロインシュアランス促進のための活動をしている組織はいくつかあり、それらの組織は、国単位でマイクロインシュアランスの提供(不足/不十分な場合)を促進するための規制に対するロビー活動や、財政的・技術的援助を通じてマイクロインシュアランス・プロジェクトを支援しています。このような組織には、ICMIF (International Cooperative and Mutual Insurance Federation: 国際協同組合保険連合) 財団、The International Labour Organisation's Impact Insurance Facility (ILO:国際労働機関)、The Microinsurance Network (MiN:マイクロファイナンス・ネットワーク)、the Insurance Development Forum (IDF:保険開発フォーラム) and the United Nations Development Programme (UNDP:国連開発計画)などが挙げられます

付加価値サービス

保険契約者にとって定期的に具体的な給付(例えば、ヘルスキャンプ(無料や低額の巡回治療)など)は、保険金を請求するかどうかにかかわらず、より「現実的」で価値のあるものとしてマイクロインシュアランスを魅力的に感じてもらうことができます。

低所得者層にマイクロインシュアランスの提供を支援するためには、消費者教育が重要です。

多くは団体を対象としコミュニティの集会等で実施されます。

図4: 本ガイドの構成

本ガイドは、相互のマイクロインシュアランスが世界中の低所得で脆弱な人々に回復力を構築するという役割を知っていただき、ICMF財団の活動に関する今後の議論の出発点となるよう、皆様の疑問にお答えします。

「マイクロインシュアランスは一般的な保険とどのように違うのか?」

図5: 一般的な保険とマイクロインシュアランスの比較

マイクロインシュアランスと一般的な保険には、以下のように明確な相違点があります。³

	一般的な保険	マイクロインシュアランス
<u>保険料</u>	一般的な保険料の払込は、年払、四半期毎の支払い、月払 年齢またはその他の特定のリスク特性に基づく料率があり、保険料は主に銀行口座から定期的に引き落とされ収集される	保険料の徴収方法、徴収頻度は、保険契約者のキャッシュフローと一致し、負担が大きいものであってはならない 他のサービスとリンクしたグループ料率を設定
<u>契約</u>	複雑な契約文書 多くの免責事項 年間契約が一般的な期間	平易な契約文書 免責事項はほとんど無し 市場のニーズに適した期間
<u>保険金請求</u>	多額の保険金請求プロセスは、非常に複雑である	保険金請求プロセスは単純であるが、詐欺への対処も行っている 迅速な保険金請求処理
<u>販売方法</u>	認可された代理店またはブローカーによる販売	多くの場合、免許を持たない非伝統的な代理店、教会、自助グループ、NGOなど、重要な消費者教育を行う集会等において販売される
<u>審査・検査</u>	健康診断、その他の検査、死亡証明書などが求められる	コストを抑えるために、審査や検査を求めることは稀れで、死亡確認は地域のリーダーによって行われる。
<u>契約者</u>	一般的に、富裕層、中流階級、もしくは一般的に保険を理解している企業に対して販売される	低所得者
<u>保障内容</u>	疾病、偶発事故による死亡や障害、盗難や火災による財産の喪失、農業災害、自然および人為的災害など、様々なリスクから保護する	一般的な保険と同様に、疾病、事故による死亡や障害、盗難や火災による財産の損失、農業の損失、自然災害や人為的災害など、さまざまなリスクから保護する

図6: 一般的な保険とマイクロインシュアランスの比較

個人に権限を与える: 相互のマイクロインシュアランスは保険契約者を中心に据えています。たとえば、保険契約者が保険の設計、保険金請求の評価や支払い、組織のガバナンスなどに関与しています。
顧客中心でニーズにあわせた商品: 保険契約者に関与の権限を与えるということは、提供されているマイクロインシュアランスの商品とサービスが、保険契約者のニーズを満たすように設計されていることを意味します。
全体且つ長期的なアプローチ: 相互の保険組織は、リスクに対して全体且つ長期的なアプローチを取ります。対象となる顧客のリスクプロファイルを調べ、全体を見た中で長期的な回復力を構築するためのツールとして、保険がどこに適合するかを特定します。その結果、相互のマイクロインシュアランス・プログラムは、リスク削減、リスク防止、およびリスク管理技術についてコミュニティを教育し、保険商品の枠にとどまらないプログラムを提供します。さらに、多くのプログラムは、ヘルスキャンプ、金融リテラシーワークショップの他、獣医ケアへのアクセスなどのサービスを追加して提供します。相互が、一人ひとりにリスクを管理させ、家族の未来を確保する力を与えます。

相互のマイクロインシュアランスとは、商業的な保険会社による提供ではなく、相互保険会社や協同組合などの相互の保険組織⁴ によって提供されるマイクロインシュアランスです。

図7: 相互のマイクロインシュアランスの主な特徴

相互のマイクロインシュアランスの主な特徴を以下のとおり紹介します。

個人に権限を与える: 相互のマイクロインシュアランスは保険契約者を中心に据えています。たとえば、保険契約者が保険の設計、保険金請求の評価や支払い、組織のガバナンスなどに関与しています。
顧客中心でニーズにあわせた商品: 保険契約者に関与の権限を与えるということは、提供されているマイクロインシュアランスの商品とサービスが、保険契約者のニーズを満たすように設計されていることを意味します。
全体且つ長期的なアプローチ: 相互の保険組織は、リスクに対して全体且つ長期的なアプローチを取ります。対象となる顧客のリスクプロファイルを調べ、全体を見た中で長期的な回復力を構築するためのツールとして、保険がどこに適合するかを特定します。その結果、相互のマイクロインシュアランス・プログラムは、リスク削減、リスク防止、およびリスク管理技術についてコミュニティを教育し、保険商品の枠にとどまらないプログラムを提供します。さらに、多くのプログラムは、ヘルスキャンプ、金融リテラシーワークショップの他、獣医ケアへのアクセスなどのサービスを追加して提供します。相互が、一人ひとりにリスクを管理させ、家族の未来を確保する力を与えます。

相互のマイクロインシュアランスとは、商業的な保険会社による提供ではなく、相互保険会社や協同組合などの相互の保険組織⁴ によって提供されるマイクロインシュアランスです。

図8: 相互のマイクロインシュアランスの主な特徴

相互のマイクロインシュアランスの主な特徴を以下のとおり紹介します。

個人に権限を与える: 相互のマイクロインシュアランスは保険契約者を中心に据えています。たとえば、保険契約者が保険の設計、保険金請求の評価や支払い、組織のガバナンスなどに関与しています。
顧客中心でニーズにあわせた商品: 保険契約者に関与の権限を与えるということは、提供されているマイクロインシュアランスの商品とサービスが、保険契約者のニーズを満たすように設計されていることを意味します。
全体且つ長期的なアプローチ: 相互の保険組織は、リスクに対して全体且つ長期的なアプローチを取ります。対象となる顧客のリスクプロファイルを調べ、全体を見た中で長期的な回復力を構築するためのツールとして、保険がどこに適合するかを特定します。その結果、相互のマイクロインシュアランス・プログラムは、リスク削減、リスク防止、およびリスク管理技術についてコミュニティを教育し、保険商品の枠にとどまらないプログラムを提供します。さらに、多くのプログラムは、ヘルスキャンプ、金融リテラシーワークショップの他、獣医ケアへのアクセスなどのサービスを追加して提供します。相互が、一人ひとりにリスクを管理させ、家族の未来を確保する力を与えます。

「相互のマイクロインシュアランスはSDGsにどのような影響を与えるのか？」

SDGsのどのゴールが相互のマイクロインシュアランスに影響を与えるかについて、現在、検証作業が行われています。これまでに入手できた証拠によると、相互のマイクロインシュアランスは以下の12のSDGに影響を与えていると言えます。

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

8 働きがいも経済成長も

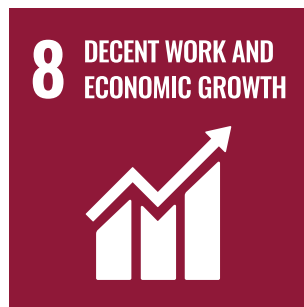
10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう



1 参照: [Issues Paper on Conduct of Business in Inclusive Insurance](#) (IAIS, 2015), 5頁

2 www.iii.org/article/background-on-microinsurance-and-emerging-markets, 8 April 2021

3 下記表の多くは右記から引用したものである: Thorburn, C., n.d. What is MicroInsurance?.

4 相互の保険組織はしばしば MCCOsとして言及される。(mutuals, cooperatives and other community-based organisations). 参照: [Issues Paper on the Regulation and Supervision of Mutuals, Cooperatives and other Community-based Organisations in increasing access to Insurance Markets](#) (IAIS and Microinsurance Network, 2010), MCCOsに関する説明は5頁を参照。

The report documented for the first time how mutual microinsurance has the potential to contribute towards the SDGs by building financially literate, insurable, resilient, and empowered communities.